

## 6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北陸)	良く なっている  やや良く なっている	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・イベントなどへの来場者が増えており、客は確実に動いている。
		家電量販店 (店 長)	販売量の動き	・気温が高く、エアコンの販売数量が上がっている。それに合わせて節電志向も強く、単価が高い。
		住関連専門店 (店長)	来客数の動き	・7月後半に入って、ようやく来客数が少しだけ上がってきた。気温に左右される部分も大きい、ようやくといった感じである。
		通信会社 (職 員)	お客様の様子	・原発稼働に伴い、電力不足の問題も山を越えたことで安心感も広がり、猛暑が続いていることから、これらの対策関連商品を求める動きも活発化している。またオリンピック開催なども重なり、それらがけん引役となり、目先はやや景気が良くなる。
		美容室 (経営 者)	来客数の動き	・前年同月比で客数が10%近く伸びている。これはここ数年なかったことである。
		住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・展示場来場者が増加基調にあり、商談件数も増えてきた。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・消費税増税が見えてきたことで、潜在客が顕在化してきたが、まだ時間があるのでじっくりと考えて行動している。少しずつだが需要は上向いている。
	変わらない	商店街 (代表 者)	お客様の様子	・購買意欲が弱く感じられる。暑い日が続き、最終セールも今一つである。
		商店街 (代表 者)	来客数の動き	・お中元シーズンにもかかわらず、恒例だった駐車場待ちの車の行列もさっぱり見られない。一番暑くなるお昼過ぎごろには、商店街を誰も歩いていないような光景がしばしば見受けられるようになった。
		一般小売店 [精 肉] (店長)	販売量の動き	・今まで売れなかった、個性的な商材が売れている感じがする。これから何が売れるか、よくわからないような感じになっている。
		百貨店 (売場主 任)	来客数の動き	・平日は来客数が減少傾向であるが、購買率が高く、明らかに購買目的が明確な買物をしている。販売店側の提案力と顧客のライフスタイルが合致した場合、明らかに単価アップにもつながっている。
		百貨店 (営業担 当)	単価の動き	・節電関連の意識の高まりから、いかにエコな暮らしをしていくかが消費の流れにある。具体的には、冷感マットであったり簾であったり、風鈴、うちわといった電気を使わない、家を涼しくしようという商材は、前年同月比で2～3割増えているのが実態である。しかし、逆の言い方をすると、エアコンなどの大型家電消費財は少し厳しい。総体的には少し厳しいところなのかなというのが今の動きである。
		百貨店 (営業担 当)	お客様の様子	・前年度とは違う日程の間隔で、クリアランスセールがスタートした。しかし、逆に7月12日までのプロパー販売が良かったのか、婦人服部門では前年売上を上回り、予算もクリアした。
		百貨店 (売場担 当)	来客数の動き	・衣料品は、買上客単価が前年同月比104%とアップしているが、客数は同98%と落ちている。インテリアや雑貨系も同様の動きだが、食品は客単価も客数も前年割れの状況である。お中元やギフトも、売上は同93%と伸びていない。
スーパー (店 長)	お客様の様子	・既に客の動きが、良い物を買おうとする動きと安い物を買う動きがあるが、単価も上がっている。		
スーパー (店 長)	単価の動き	・客単価がなかなか上がらない状況が現在でも続いている。1品単価は、100円未満の売価の特売の回数を増やしたり、企画品を増やしているが、買上点数としては伸び切れていないのが実情である。今後もその傾向は続くものと思われる。		
スーパー (総務 担当)	お客様の様子	・傾向として、酒類、菓子、果物といったし好品の買上率が低迷している。その他夏商材は7月前半は低迷していたが中旬から伸び、アイス、飲料といったし好品は好調な状況である。同様にうなぎは高騰するも前年の点数、売上高を超えた。以上から生活必需品は横ばい、し好品も上向きながら横ばいで、食品への財布の紐は変わらず固い。		

スーパー（統括）	来客数の動き	・依然ここ数か月、来客数が前年同月と比べると95～96%程度と、前月、前々月と変わらない状況が続いている。その中で、若干買上点数が上がり、実質的には売上が前年同月比97～98%程度になっている状況である。
コンビニ（店舗管理）	単価の動き	・ショッピングセンター内に惣菜専門店を出店しているが、客単価が前年同月比90%前後で推移し続けている。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・不景気感からくるのか、買上数や買上単価はなかなか上がらない。
家電量販店（管理本部）	販売量の動き	・季節に左右される商品以外の販売に前年同月比で大きな変動が見られない。
乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・足元の業績は受注残をこなしているため順調に推移しているが、補助金の終了予想と時を同じくして、受注ペースが相当落ちている。イベントではそこそこ客の来店はあるのだが、なかなか成約に結びつかない。
乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・新車購入補助金、エコカー減税効果もあり、前年同月比較で車の販売量は180%である。ただし、前年は東日本大震災の影響で生産は未だ回復途上であった要因が大きく、また、販売量は前々年同月比較で90%であり、個人消費が増加したとは言い切れない面がある。
その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・お中元シーズンであるが、ある程度の注文は入ったが、前年よりも下回っているという状況である。景気は本当によくない。
その他専門店〔医薬品〕（総務担当）	来客数の動き	・梅雨明けが例年より早くなったため、節電グッズの動きは活発だが、例年の動きが早まっただけで来客数、売上の増加には寄与していない。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・6月下旬から7月上旬までの2週間における電話予約が、前年同期比70%と過去1年で最も悪い結果となった。特に官庁や法人からの受注が悪かったが、3連休前後から例年並みまで回復している。
観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年同月比では売上は102%、宿泊人数は同100%、宿泊単価は同99%となっているが、前々年同月比では売上は95%、宿泊人数は同95%、宿泊単価は同99%と、震災前の水準を回復していない。北陸は、全般に東北支援、九州新幹線の影響が出ていると考えられる。
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・全国規模の大会などがあり、宿泊、レストランが好調に推移している。
都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・第1四半期は比較的好調に推移したものの、夏季に向けての積極的な上昇要因が見当たらず、予約状況も例年並みに推移すると見込まれる。
タクシー運転手	販売量の動き	・毎日が暑いせいか日中の移動手段としてタクシーをよく利用される。しかし、遠い所は少ない。
通信会社（社員）	販売量の動き	・スマートフォン需要および光サービスが好調である。
通信会社（役員）	販売量の動き	・競合事業者を意識した商品やサービスの強化、拡充を順次進めてきた結果、新規契約の獲得件数は着実に伸びている。
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新商品が発売され、爆発的に販売数が伸びたわけではなく、新商品を買って控えていた対象となる客層が明確になったと思われる。
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新製品の予約や購入はあるが、一部の客に限られている感じがする。全体的には横ばいである。
競輪場（職員）	販売量の動き	・ゴールデンウィークから始まり、グレードレースが続く好条件だったここ2、3か月だったが、売上平均は横ばいだった。
住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・消費税増税を見越したものの、住宅新築工事やリフォーム工事に多少増加の動きが見られる。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子 ・中心部の一斉セールで、初日の人通りは非常に多いが、その後が続かない。セールも限界にきていると思われる。
	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き ・週の半ばは以前から忙しくもなかったが、ここしばらくは午前中でほぼ仕事が終わってしまう感覚である。週末でもにぎわいはない。

一般小売店〔事務用品〕（役員）	販売量の動き	・業界的にはこの時期はあまり物が売れたり、消費者が買うような時期ではない。大きなものであれば、設備投資が半年から1年前くらいに分かっているため、そういう販売計画や販売額は予想できたのだが、今期に関してはこの時期、なかなかそういう見込みがなかったため、販売量が非常に落ちている。非常に厳しい状況である。
一般小売店〔書籍〕（従業員）	お客様の様子	・夕方以降、来客数が激減している。外食など外に出ることが少なくなり、小売店などへの影響も大きい。
スーパー（総務担当）	競争相手の様子	・食品スーパーのチラシ特売価格が、競合店も含めて下がっている。価格で集客を図ろうとしているが、客数は増加せず前年を下回る状態が続いている。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数が前年と比べて約5%落ちている。また、特にたばこの売行きが、今のところは悪い状態である。
コンビニ（経営者）	それ以外	・前年に当地でコンビニ業界の再編成があり、吸収される大手コンビニチェーンは一斉にクローズし、店舗改修に入った。そのため、当店は売上が絶好調だったという経緯があり、今年はその反動で前年比が大幅に落ちている。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・売上額で考えると、当店ではうなぎの特注弁当を土用の丑の日までやっていたが、個数的には少ないが単価的に上がっているため前年と同様かそれ以上の売上であり、うなぎ関連商材は好調であった。逆に、1か月間の売上が前年とそれほど変わらないということは、うなぎの価格が上がっている分、一般的な通常の商品は下がっているのではと感じられた。うなぎに対してはお金を出してもらえたが、他の一般商品に関しては例年を下回っている状況である。トータルでは少しプラスだが、ほとんどがうなぎのプラス分である。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・7月に入り猛暑となった。セールは、例年だとほとんどのブランドが一斉のスタートで、商店街も客が集中したが、今年はメーカーによってセールを7月の半ばに遅らせるところが出たため、店舗ごとのバラバラのスタートになり、来街者数も分散し勢いが感じられなかった。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・来店、引き合い共に大きく減少している。終盤を迎えた補助金の影響もあるが、それ以外にも目新しい新型車がないことや、出尽くした感の販売施策など、購入喚起策不足も原因ではないかと分析している。
乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・前年と比べて、販売総台数のなかで軽自動車占める割合がどんどん多くなり、売上単価が小さくなっている。
自動車備品販売店（従業員）	お客様の様子	・集客の落ち込みは前年同月と比較して大きくはないが、例年動きがよくなるナビゲーション関連において、カーディーラーのオプション装着比率が高まり、大きな落ち込みが発生し、全体単価の低下につながっている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	単価の動き	・単価が上がったと思ったら、少し経つと単価が下がってきている状況である。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	お客様の様子	・前年同月の売上は、非常に猛暑ということもあり105%と伸長した。今年の7月期を見ると、前年同月比約90%となり10%の低下である。特に衣料品が同80%台で、不要なものは買わないということ、食品については、低単価の商材を買うという傾向が続いている。
一般レストラン（店長）	お客様の様子	・地域の基幹産業である漆器産業や観光産業が総じて不調で、人の動きが悪い。
一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・平日、土日に関係なく、全体的に落ち込んでいる。コンビニの出店攻勢で、昼のサラリーマン客が取られている。大手チェーンの参入も多い。消費税や将来受取る年金などの話題が多い。
観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・夏休み期間中の予約状況が悪い。予約の間際化が進んでいるのが要因の1つと思われるが、7月下旬は結果的に前年を下回っている。原子力発電所の影響もあるのかも知れない。

	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・例年この時期は、間際予約の客も見込んでいるが、今年は猛暑やオリンピック開幕などで、出かけようとする様子が見られない。また、選ばれる商品の単価も下がっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・今年の梅雨は雨が少なく足元もよく、タクシー利用客が少なかった。また、梅雨明け以降天候が良く、連日暑い日が続き熱中症を避けるため、特にお年寄りには極力外出を避ける傾向にあり、タクシー利用は少なかった。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・自粛ムードで厳しかった前年同月の数字と比較しても、集客はマイナス5%程度で推移しており、大変厳しい流れとなっている。その要因としては、前年の九州新幹線開業や本年の東京スカイツリー開業、東北への本格的な復興支援策などがあり、北陸エリア全体への客の注目が薄れており、団体客を中心に集客が落ち込んでいる現状にある。
	その他レジャー施設（職員）	お客様の様子	・大人の利用者が、低料金の公共施設へ移動することが多くなった。
悪くなっている	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・セールスタートダッシュが、少し落ち着いてきたこの時期になると、特に平日やイベント、優待などのない時は、大変来客数が落ち込んでおり、その中でも買上客数はさらに落ち込んでいる状態である。
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・福井の景気は大変悪い。福井の小売はとにかく悪いようである。自社の他店舗は全国で20数店舗あるが、前年同月の数字を下回る店舗は2、3店舗ほどであり、その1つが福井店である。5月、6月、7月と続けて前年同月を下回っている。
	スナック（経営者）	競争相手の様子	・開店以来の最悪の状態、人の出入りが少なく赤字となった。地元では中旬から1週間、全国から学会が開催され人が集まっていたが、逆に出張族の来店が少なく、ホテルや食事の店は忙しそうであったが、当店は閑散としていた。他店の経営者も「もう、店をやめたいという心境だ」と語っていたが、全く同じである。
企業動向関連 (北陸)	良くなっている	—	—
	やや良くなっている	不動産業（経営者） 税理士（所長）	受注量や販売量の動き 受注量や販売量の動き
変わらない	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・秋冬から春夏へ商品構成が変更になってから、荷動きが変化していない状況にある。
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・超円高やユーロ安もあって輸出は大打撃を受けている。加えて、国内市場も決してよくなく、ユニフォーム関連では在庫調整や生産調整が行われ、回復のきざしが見えない。前年同月比マイナスの受注状況が続いている。
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当社会議の中で、今後の受注状況は現状維持の予定である。
	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・主力の住宅市場は、少し増えているとは言われているが、当社の受注量を見る限りでは、まだほとんど変わらない横ばい状態が続いている。
	精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・販売先、仕入先とも、依然として厳しい状態が続いている。各社、絞り込み、開発、異分野へ向けた取組に努力しているものの、なかなか現状を好転させるまでには至っていない。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・第1四半期は、年度初めであり工事の設計から始めるために、4、5月は例年工事の発注が少ないのに加えて、今年は会計検査がありその対応のため、さらに発注が遅れた。そのため7月になり県、市とも急に発注が増えだし、技術者不足になっている。手持ちの仕事が少ないままに推移しているという意味で景気は変わらない。

	輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・医薬品については荷動きが良いが、その他の輸送は変わらず良くない状況が続いている。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・取引先の売上高や受注量の動きが、やや上昇傾向の動きもあったが、現状においては引き続き緩やかな持ち直しに留まり、回復のテンポが緩やかになっている。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・引き続き、欧州の信用不安や株価の低迷なども続いているが、この環境自体は3か月前と何ら変わるものではなく、これらを踏まえた市場実勢が反映されだした。	
	司法書士	取引先の様子	・経営状態が悪い中、なんとか事業を継続してきた会社の倒産が目立った。	
やや悪くなっている	繊維工業（経営者）	取引先の様子	・秋冬物が終盤の追い込みにかかっているため、現在は一時的に忙しいだけである。また最近の消費の動きが非常に悪くなっているという状況もある。	
	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当社が一番の市場である欧州が、円高ユーロ安で受注が伸びないので、非常に厳しい経営環境である。	
	電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・現在、電子部品業界は、スマートフォンやタブレット端末向けの部品の供給が、非常に忙しい状況になっているものの、9月以降、受注動向が非常に気になる場所である。若干の減少あるいは在庫調整という話が聞こえている。	
	輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・追加のエコカー補助金が間もなく終了見込みとなり、車関係の物量が落ち込んでいる。さらに円高推移により、輸出関連、特に中国向けが落ち込んでいる。	
悪くなっている	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・特に民間建築工事の発注が少ないことから、破格の価格で見積りや入札することが依然として後を絶たず、採算度外視の価格で受注していくケースが見受けられ、異常な受注競争が続いている。	
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・2か月連続で売上は前年同月実績を下回っている。特に、住宅関連のチラシ出稿量が激減している。	
雇用関連	良くなっている	—	—	
(北陸)	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・新卒の求人数が、堅調に動いている。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・正社員欠員補充または、産休育休による需要が少し増えてきた。しかし、期間限定や一時的な求人のため、求職者も長期安定感がないようで、応募数も少ない。また、企業側は、数社に声をかけているためスキルや経歴を問われる。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者数は安定しているが、企業と登録スタッフ双方のニーズがマッチングしないケースがある。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・特に大きな変化はない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で大幅に増加しているが、正社員求人の増加幅が小さく、雇用環境の厳しさは変わらない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は前年同月比、前月比ともに増加傾向にあり、月間有効求人については、2年以上連続で前年同月比増で推移している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で増加、新規求職者数は減少傾向にある。求人倍率は1倍を超えて推移しており変わらない。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・紹介、派遣の求人数が増えてこない。登録者も低位の横ばい状態が続いている。
	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・前年同時期に比べ、学生の内々定数が若干だが良くなった。	
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・7月の求人広告の売上は、前年同月比約8割である。
悪くなっている	—	—	—	